

## 濃淡のパビリオン

紙のやわらかな透過性は、光 / 影を分け隔てることなくつないでくれる。

その連続性を生み出すパビリオンの設計提案である。

紙は、光にとってはとても柔軟な存在である。

1枚では光をすかせ、  
束ねると光を遮断する。  
ではその中間はどうであろうか。  
その重なる量によっては  
影と光を紡ぐ存在にもなる。

本計画は、紙を積層させ屋根をつくる。  
そこでは光も影も分け隔てることなく存在するのだ。  
つまり両方を紡ぐ建築になる。

光があたる場所では人々は活発なり、  
日陰で休むこともできる。  
それがひとつの連続する空間の中でおこなわれるのである。

また、この敷地は河岸にある。  
その境界をもつなぐように形状を回廊とし、  
半分を河川にせりださせた。  
水面に光が落ちる姿をつくりだすことは、  
ひとも気分をも変えていく建築となるだろう。

